



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/18 (月)	+ 200	▲ 3,600	▲ 3,400	国庫短期証券 発行・償還(3M)	CP等買入 補完供給 ▲ 400 + 100	CP等買入 + 5,000	米: 鉱工業生産 (9月) 中: GDP (3Q)
10/19 (火)	トン	+ 2,000	+ 2,000				米: 住宅着工件数 (9月)
10/20 (水)	トン	▲ 38,000	▲ 38,000	国債発行 (20年) 国庫短期証券 発行・償還 (1Y)			日: 貿易収支 (9月) 米: 地区連銀経済報告 (ページブック) 公表 欧: ユーロ圏CPI (9月) 英: CPI (9月)
10/21 (木)	▲ 1,000	+ 1,000	トン				米: 新規失業保険申請件数 (16日終了週) 米: フィラデルフィア連銀製造業指数 (10月) 欧: EU首脳会議 (ブリュッセル, 22日まで) 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (10月)
10/22 (金)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				日: 全国CPI(前年比) (9月) 日: 日銀営業毎旬報告(10月20日現在)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初534兆2,400億円から始まった。その後は14日まで横ばい圏で推移したが、15日の年金定時払いにより、同残高は増加し、541兆5,700億円を越えた。  
無担保コールON物同加重平均金利は先週対比でビッドサイドの調達ニーズが減退したため、週を通して軟調な地合で推移した。なお14日の同金利は△0.052%と2021年6月30日(△0.050%)以来約4か月ぶりの低水準となった。ターム物は、新積み期スタートの1W~1M物を中心に、主に△0.010%~△0.001%の水準で出が見られた。  
来週の主な予定は、国内では、20日に貿易収支(9月)、22日に全国CPI(9月)の公表などがあり、海外では、18日に中国GDP(3Q)、20日に米地区連銀経済報告(ページブック)・ユーロ圏CPI(9月)の公表予定されている。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.080 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

### <レポ>

足許GC取引は週初△0.085%近辺の出会いから始まった。国債買入れオペがオフアされた13日の取引以降はレートが低下し、△0.13%~△0.12%で取引された。新積み入りする15日の取引では、△0.100%~△0.09%で出会いが中心となった。SC取引では2年409~428回債、5年137~148回債、10年333~364回債、20年163~177回債、30年69~72回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.070 ~ 0.000

### <CP>

今週の入札発行総額は約8,500億円で、週間償還額(約3,400億円)を上回った。発行市場は、5・10日発行と卸売業や電気機器業などの大型発行により、活況なマーケットとなった。先週末の市場残高は23兆3,585億円であったが、10月14日時点では23兆7,560億円と増加した。発行レートは、発行頻度や発行期間等により幅広いレートでの約定が観測され、△0.070%~0.000%での出会いとなった。13日に、CP買入れオペが予定通り5,000億円でオフアされた。結果は案分レート△0.015%・平均落札レート△0.010%となり前回比(案分レート△0.022%・平均落札レート△0.017%)で上昇した。期初の発行再開に伴い、事業法人の発行が相応に見られたため、一定量の売却ニーズがあったものと推測される。  
来週の週間償還額は、約3,650億円となっている。発行市場は、25日スタート絡みの発行が見込まれるため、発行超を予想する。発行レートは、コロナオペ担保目的等の引受需要が強いことから、期越え銘柄や希少銘柄等を中心にマイナスレートでの出会いを予想する。

### <TDB>

10月15日の3M1030回債(2022年1月24日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1117%(前回債△0.1098%)、平均落札利回り△0.1172%(前回債△0.1198%)となった。来週は10月19日に1Y、10月21日に6M、10月22日に3Mの入札がある。